

日本人と外国人日本語学習者の敬語使用

シルフィアナ・ユリアンティ

1. はじめに

日本語の中で話の主題になる人物や話し相手に対する敬意を示すために用いられる言語表現を敬語という。日本だけではなく、外国でも日本語を習う人、使う人が多く、敬語教育を大事に扱っている。語形変化、相手と自分との相対的な社会的関係を意識しないと、聞き手に対して失礼に当たる可能性がある。ところが、日本に来ると、公共の場書いている、耳にする日本人の敬語使用に違和感を感じることもある。外国では誤用とされる敬語表現が日本では盛んに使用されている。

1995年から1998年にかけて文化庁によって行われた世論調査で、誤用とされる敬語表現に関する問題を扱っている。それによると、1995年から1998年にかけて誤用とされる敬語表現が気になる人の割合がはだんだん少なくなっている。この世論調査の結果を見ると、誤用とされる敬語表現が日本人に多く使用されるようになってきていることがわかる。

そこで、日本人学生と外国人日本語学習者を対象に、敬語表現のアンケート調査を行うことにした。敬語の例文を示し、例文について適切かどうかを判断してもらい、適切ではない場合は適切だと思う文を求める。本研究では日本語母語話者の敬語に関する使用意識を外国人の日本語学習者と比較する。本研究を通じて日本人と外国人日本語学習者の敬語使用の誤りに一石を投じたいと思う。

2. 日本語の敬語について

敬語の種類としては尊敬語・謙譲語・丁寧語とあるが、ほかに美化語を加えて四種類とする考え方が主流となっている。なお、文化審議会（文部科学省の外部組織）の国語分科会から2006年10月「敬語の指針」が発表された。それによると謙譲語をI類とII類に分けて、敬語を五分類するという方針が盛られている。

2.1 尊敬語

相手側又は第三者の行為・ものごと・状態などについて、その人物を立てて述べるもの。

<該当語例>

[行為等（動詞、及び動作性の名詞）]

いらっしゃる、おっしゃる、なさる、召し上がる

お使いになる、御利用になる、読まれる、始められる

お導き、御出席、（立てるべき人物からの）御説明

[ものごと等 (名詞)]

お名前, 御住所, (立てるべき人物からの) お手紙

[状態等 (形容詞など)]

お忙しい, 御立派

2.2 謙譲語 I

自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて, その向かう先の人物を立てて述べるもの。

<該当語例>

伺う, 申し上げる, お目にかかる, 差し上げる

お届けする, 御案内する

(立てるべき人物への) お手紙, 御説明

2.3 謙譲語 II

自分側の行為・ものごとなどを, 話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。

<該当語例>

参る, 申す, いたす, おる

拙著, 小社

2.4 丁寧語

話や文章の相手に対して丁寧に述べるもの。

<該当語例>

です, ます

2.5 美化語

ものごとを, 美化して述べるもの。

<該当語例>

お酒, お料理, 御家族

3. 調査方法

2018年6月下旬から8月上旬にかけて、「日本人と留学生の敬語使用に関するアンケート調査」を行った。本研究の調査対象は広島大学の日本人学生50名、日本に留学している外国人50名（レベル4、5のクラスに参加している学生、または日本語能力試験2級以上を持っている学生）である。

調査では、先ず調査対象者の国籍、性別、日本語レベル（留学生の場合）を尋ねた。日常によく耳にする、或いは目にする敬語表現の例文を 15 示し、例文について適切かどうかを判断して、適切と思った場合は○をつけてもらい、適切ではない場合は×をつけて、適切だと思う文を求める。アンケートは以下のパターンから構成されている。

1. 二重敬語
2. 謙譲語を尊敬語として使用する表現
3. 敬語表現の簡単な組み合わせ
4. 物事に対しての敬語使用
5. 「社外」と「社内」の敬語の使い分け
6. 「させていただきます」の拡大使用

調査対象者の性別、国籍は以下のとおりである。

性別

	日本人	留学生	合計
男性	17	21	38
女性	33	29	62
合計	50	50	100

国籍

日本	インドネシア	中国	ミャンマー	韓国	インド	ニュージーランド	合計
50	26	17	3	2	1	1	100

4. 調査結果及び考察

4.1 結果と分析

アンケート調査の結果と分析は以下に示す。

4.1.1 二重敬語文

例文 1：ご注文をお承りします。

例文 1 の集計結果

	適切	不適切
日本人	19	31
留学生	34	16

例文 1 の集計結果を見ると、二重敬語に対して不適切と思った日本人学生は 31 名である。一方、留学生は例文 1 に対して不適切と思った人は 16 名であり、日本人学生の約半数である。つまり、留学生の方が二重敬語の使用を許容している人が多いことが分かった。例文の中に「承る」という言葉はすでに謙譲語で、さらに謙譲語の「お（ご）～する」を

つけると二重敬語になってしまう。例文 1 に対して適切な敬語表現は「ご注文を承ります」である。

例文 1 の訂正文

訂正文	日本人	留学生
ご注文を承ります。 (○)	24	14
ご注文を伺いたします。 (×)	4	
ご注文を承りしております。 (×)	2	
ご注文をお伺いします。 (×)		2
合計	30	16

「ご注文を承ります」と訂正した人（日本人 24 名、留学生 14 名）が一番多く、予想していた結果となった。「ご注文を伺いたします」と訂正した人は 4 名で、全て日本人学生であった。「伺う」とは「聞く」の謙譲語であるため、さらに「いたす」という謙譲語を付ける必要はない。また、「伺う」という謙譲語を使い、さらに謙譲語の「お（ご）～する」をつけ、「ご注文をお伺いします」という不適切な敬語表現と訂正した人も 2 名で、留学生であった。最後に、「ご注文を承りしております」と訂正した人は 2 名で、日本人学生である。「承る」は謙譲語の動詞ということ意識せず、「承り」はサ変動詞だと勘違いして、「しておく」という謙譲語を付けたものと推察できる。

例文 2 : 先生がお越しになりました。

例文 2 の集計結果

	適切	不適切
日本人	31	19
留学生	14	36

例文 2 の集計結果を見ると、不適切と回答した日本人学生は 19 名であった。一方、例文 2 に対して不適切と回答した留学生は 36 名で、日本人学生の約 2 倍であった。つまり、例文 2 に対して、留学生の方が違和感を感じる人が多いことが分かった。

「お越しになる」はすでに尊敬語で、さらに「れる」という尊敬語をつけると、二重敬語になってしまう。次に、例文 2 に対する適切な敬語表現を 4 例ほど挙げる。

- 「先生がお越しになりました」
「お（ご）～になる」の尊敬語である。
- 「先生がお越しです」
「お（ご）～です」の尊敬語である。
- 「先生が見えました」
「見える」とは「来る」という意味を表す尊敬語である。

- 「先生がいらっしゃいました」
「いらっしゃる」は「行く」、「来る」、「行く」の尊敬語である。

例文 2 の訂正文

訂正文	日本人	留学生
先生がお越しになりました。(○)	7	28
先生がお越しです。(○)	4	
先生が見えました。(○)	4	
先生がいらっしゃいました。(○)	4	4
先生がお越しなさいました。(×)		2
先生がお越しになれました。(○)		2
合計	19	36

上述した4つの適切な敬語表現に訂正した人は合計51名であった。「先生がお越しになりました」と訂正した日本人が7名であるのに対し、留学生は28名で、日本人の4倍であった。「先生がお越しなさいました」は「お(ご)～なさる」という形である。「お(ご)～なさる」という形はサ変動詞の場合のみ、用いることができる。ところが、「越す」はサ変動詞ではないので、「お(ご)～なさる」という形式を用いることができず、不適切な敬語表現である。「先生がお越しになれました」は「お(ご)～なる」の尊敬語に可能形「れる」をつけ、「先生が来ることができました」という意味を表していると考えられる。

4.1.2 謙譲語を尊敬語として使用する表現

例文3：ご確認くださいませようお願い申し上げます。

例文3の集計結果

	適切	不適切
日本人	34	16
留学生	30	20

例文3の集計結果から分かるように、例文3を不適切だと思った日本人、留学生はそれぞれ16名、20名であった。不適切と思った人に比べると、適切と思った人が多いという結果である。例文3では「お(ご)～する」という謙譲語の形を尊敬語として使っていることが問題である。奥秋(2007)は「相手側の動作を高めて表すべきところで、逆に動作を低めて表す敬語を使って、平気である場面が日常的にくり返されている。これは、もう驚きというほかない」と述べている。例文3に対する適切な敬語表現は「ご確認くださいませようお願い申し上げます」である。

訂正文	日本人	留学生
ご確認くださいませようお願い申し上げます。(○)	1	10
ご確認していただきますようお願い申し上げます。(×)	10	
ご確認してくださいませようお願いいたします。(×)		6
ご確認していただけますようお願い申し上げます。(×)		2
ご確認いただけますようお願い申し上げます。(△)	1	
ご確認いただきますようお願い申し上げます。(△)		1
ご確認くださるようお願い申し上げます。(×)		1
合計	12	20

「ご確認くださいませようお願い申し上げます」と訂正した日本人が1名であるのに対し、留学生は10名であった。上述したように、「ご確認くださいませようお願い申し上げます」は例文3に対する適切な敬語表現である。つまり、留学生の方が「お(ご)～する」を謙譲語として認識していることが分かった。日本人学生に「ご確認くださいませようお願い申し上げます」と訂正した人が多いのは、奥秋が述べているように「お(ご)～する」を尊敬語として平気である場面が日常的にくり返されているからであろう。最後に、「ご～いただく」という謙譲語を使って、訂正した人は2名で、留学生であった。文法的には適切な敬語表現であるが、例文3では「ご確認ください」の文を「ご確認いただく・いただける」と訂正して、「確認してもらおう」という意味を表しているであろう。

例文4：～様がおりましたら、三階の事務室までお越してください。

例文4の集計結果

	適切	不適切
日本人	17	33
留学生	20	30

謙譲語を尊敬語として使用している例文4に対して、不適切と思った日本人学生、留学生はそれぞれ33名、30名であった。つまりこの例文に対しては、違和感を感じる人が多い。例文4では「おる」という謙譲語を尊敬語として使用していることが問題である。デパートのアナウンスなどでよく耳にする呼び出し方であるが、ここの「おる」の使い方に問題がある。客に対して敬意を表すには「いらっしゃる」を使うのが適切である。

例文4の訂正文

	日本人	留学生
～様がおられましたら。(×)	10	3
～様がいらっしゃいましたら(○)	18	21
～様がおおりましたら(×)		1
～様がまいりましたら(×)		1

～様がいらっしゃったら (○)		4
合計	28	30

上述したように適切な敬語表現、「～様がいらっしゃいましたら」と訂正した人（日本人学生は18名、留学生は21名）が一番多く、予想していた結果となったが、両者にはあまり差が見られなかった。「～様がおられましたら」と訂正した留学生は3名であった。一方、日本人は10名で、留学生の約3倍となっている。「おる」という言葉は謙譲語であるので、客に対しては失礼に当たる。「おる」に「れる」だけを付けて、尊敬語になるわけではない。つまり、二重敬語は適切な敬語表現だと思う人は、日本人学生の方が多いことが分かった。「～様ごおりましたら」と訂正した人は1名で、留学生であった。「おる」という謙譲語に「ご」を付けるだけで、尊敬語になるわけではない。「～様がまいりましたら」と訂正した留学生も1名いた。「参る」とは「行く」と「来る」の謙譲語で、例文4に対しては不適切な敬語表現である。

4.1.3 敬語表現の簡単な組み合わせ

例文5：この電車にはご乗車できません。

例文5の集計結果

	適切	不適切
日本人	40	10
留学生	34	16

例文5の集計結果を見ると、日本人と留学生、両者とも例文5を適切と考えた人が多かった。一方、不適切と思った人は日本人学生10名で、留学生は16名であった。「お（ご）～できる」という型は「（私は）あなたのために～することができます」を表す謙譲表現である。乗車するのは乗客なので、客の動作を低めて表していることになる。例文5に対して「ご～いただけない」、「ご～なれない」の尊敬語のパターンを使うのは適切な敬語表現である。

例文5の訂正文

訂正文		日本人	留学生
この電車にはご乗車になれません。(○)		7	11
この電車にはご乗車いただけません。(○)			3
ご乗車になることができません。(△)		2	
この電車には乗車できません。(△)			1
この電車はご利用できません。(×)			1
この電車にはご乗車していただけません。(×)		1	
合計		10	16

適切な敬語表現で訂正した人が一番多かった。「この電車にはご乗車になれません」と訂正した日本人学生は 7 名であるのに対し、留学生は 11 名で、日本人学生より多い。「この電車にはご乗車になれません」は上述したように、例文 5 に対する適切な表現である。「この電車にはご乗車いただけません」と訂正した人が二番目に多かった。「この電車には乗車できません」という表現は文法的に間違いがない。しかし、客に対しての敬意が足りない。「この電車はご利用できません」は「乗車」という言葉を「利用」に変えるだけで、「お（ご）～できる」の型をそのまま使っている。上述したように、「お（ご）～できる」は誤用である。「この電車にはご乗車していただけません」は「していただく」という謙譲語 I の一般形である。つまり、「ご乗車していただく」という表現は、丁寧にしようと「ご」を付けてしまったばかりに、誤った敬語となってしまう、というわけである。

例文 6：先生はご出席されますか。

例文 6 の集計結果

	適切	不適切
日本人	34	15
留学生	22	28

例文 6 の集計結果を見ると、例文 6 を不適切だと思った日本人は 15 名である。一方、例文 6 を不適切だと思った留学生は 28 名で、日本人のほぼ 2 倍になった。例文 6 では謙譲語の「お（ご）～する」を使うため、先生に対しては不適切な敬語表現になる。「お（ご）～する」に尊敬語「れる」をつけても、尊敬表現にはならない。「お（ご）～される」は構造上は非文法的ではあるが、語頭に尊敬語のシンボルとも思われる「お（ご）」があるから、人々に受け入れられやすくなったということであろう。例文 6 に対するいくつかの適切な敬語表現を以下に挙げる。

- 「先生は出席されますか」「お（ご）」をとり、尊敬語の「れる」をつける。
- 「先生はご出席になりますか」「お（ご）～になる」の尊敬語。
- 「先生はご出席なさいますか」「お（ご）～なさる」の尊敬語。

例文 6 の訂正文

訂正文	日本人	留学生
先生は出席されますか。(○)	7	8
先生はご出席になりますか。(○)	4	6
先生はご出席なさいますか。(○)	4	4
先生はいらっしゃいますか。(△)		6
先生は来られますか。(○)		2
先生はご出席になれますか。(×)		1
先生はご出席しますか。(×)		1
合計	15	28

上述した適切な敬語表現「先生は出席されますか」、「先生はご出席になりますか」、「先生はご出席なさいますか」と訂正した人が一番多く、予想していた結果となった。「先生はいらっしゃいますか」と訂正した人は6名で、全て留学生である。出席とは授業や会合に出ることである。「いらっしゃる」は「来る」、「行く」の尊敬語で、「出席」の代わりに「いらっしゃる」を使っても、適切な敬語表現であるが、「いる」の意味もあるので、思い違いをさせる可能性がある。「ご出席になれますか」は「お（ご）～なる」の可能形で、適切な敬語表現である。「ご出席しますか」と訂正した人は1名で、留学生であった。「お（ご）～する」という謙譲語を尊敬語を使うべき相手に対して用いるのは不適切である。

4.1.4 物事に対する敬語使用

例文 7: ご注文の品はすべておそろいになりましたか。

例文 7 の集計結果

	適切	不適切
日本人	24	26
留学生	36	14

例文 7 の集計結果を見ると、日本人の場合、例文 7 を適切と答えた人と不適切と答えた人がほぼ半数となった。留学生は例文 7 を不適切と答えた人が 14 名であった。つまり、留学生の方が例文 7 に対して違和感を感じる人がかなり少ないことが分かった。

「お（ご）～になる」とは動作を高める表現である。事柄や品物には意志がない。意志のない事や物に対して敬いの表現が用いられるなどということは、常識的には考えられないはずである。ところが、敬語を使うべき人への敬意を表すために、その人に関する物事にまで尊敬語を使うようになる場合がよくある。例文 7 のように、物に対して尊敬語を使うのは誤りである。例文 7 の適切な敬語表現は「ご注文の品はすべてそろいましたか」である。

例文 7 の訂正文

訂正文		日本人	留学生
ご注文の品はすべておそろいですか。(×)		4	5
ご注文の品はすべてそろいましたか。(○)		4	1
ご注文の品はすべてそろっておりますでしょうか。(×)			1
ご注文の品は全ておそろいでしょうか。(×)		14	3
ご注文の品はすべてきましたか。(△)		2	
ご注文の品はすべておそろいになりましたか。(×)		2	
ご注文の品はすべておそろいになりましたか。(×)			4

合計	26	14
----	----	----

例文7に対する適切な敬語表現「ご注文はすべてそろいましたか」と訂正した人は少なく、日本人4名、留学生1名であった。「お（ご）～です」の尊敬語を使い、「ご注文の品はすべておそろいですか」と「ご注文の品はすべておそろいでしょうか」と訂正した人は合計26名で、一番多い。尊敬語の表現「お（ご）になる」と訂正した人は4名で、全て留学生であった。また、「お（ご）～になる」に「られる」を付けて、二重敬語になる表現に訂正した人は2名で、全て日本人学生であった。

4.1.5 「社外」と「社内」の敬語の使い分け

例文8：〇〇（同僚）から伺っております。

例文8の集計結果

	適切	不適切
日本人	36	14
留学生	38	12

「社外」と「社内」の敬語の使い分けに関する例文8の集計結果から分かるように、この例文に対しては、違和感を感じる人が少ないことが分かった。不適切と考えた人は、日本人14名、留学生12名であった。両者にはあまり差が見られなかった。

「伺う」は「行く」のほか、誰かから「伝え聞いた」「教えてもらった」という意味合いの「聞く」である。謙譲語というのは自分を低めて相手に敬意を表す表現である。ところが、社外の人と自社の同僚について話す場合、「伺う」を使うと同僚のことを高めて、自分を低めて、間違い敬語になる。例文8の適切な敬語表現は「伺う」という謙譲語を「聞く」に訂正して、「〇〇（同僚）から聞いております」である。「聞く」を使うと、自分と同僚の地位が同じという意味を表すようになる。

例文8の訂正文

訂正文	日本人	留学生
聞いております(○)	13	6
伺っています(×)		4
聞いています(△)	1	
合計	14	10

「聞いております」と訂正した人（日本人学生13名、留学生6名）が一番多い。「伺っています」と訂正した人が4名で、全て留学生であった。「伺う」という謙譲語を使うと適切な敬語表現にはならない。例文8は、「同僚から何かを教えてもらった」という意味で、「伺う」を使うと自分を低めて、その結果同僚のことを高めることになるので、不適切な敬語となる。「聞いています」と訂正した人は1名で、日本人学生であった。「聞

いています」は文法的には間違いがないが、敬語ではないので、「おります」の方がより適切である。

例文 9：ほかの会社から電話がかかって、返事する時
部長は只今ご不在です。

例文 9 の集計結果

	適切	不適切
日本人	3	47
留学生	4	46

例文 9 の集計結果を見ると、日本人と留学生、ほとんどの人が例文 3 を不適切と考えたことが分かった。例文 9 を不適切と考えた日本人学生は 47 名で、留学生は 46 名であった。例文 9 では、ほかの会社から電話がかかって、部長の不在を会社外の人に伝えるという意味である。会社外の人に部長のことを話す時は、部長は自分の側の人物なので、尊敬語ではなく、謙譲語を使う方が適切である。例文 9 の適切な敬語表現は「部長は只今不在でございます」または「部長は只今不在です」である。

例文 9 の訂正文

訂正文	日本人	留学生
部長は只今不在です。(○)	30	14
部長は只今席をはずしております。(○)	12	18
部長は只今外出中でございます。(○)	4	
部長は只今不在しております。(×)		4
部長は只今出かけております。(○)		4
部長は只今不在になります。(×)		2
部長は只今外出中です。(○)		2
部長は只今おりません。(○)		2
部長は只今不在でございます。(○)		2
部長は只今不在になっております。(×)		2
部長は只今不在であります。(△)	1	
合計	47	46

例文 9 に対する適切な敬語表現「部長は只今不在です」と訂正した日本人、留学生はそれぞれ 30 名、14 名であった。「部長は只今席を外しております」と訂正した日本人、留学生はそれぞれ 12 名、18 名で、二番目に多かった。例文 9 の中の「不在」という言葉を消し、「席を外す」という句に変えられるが、同じ意味を表すので、適切である。「部長は只今外出中でございます」、「部長は只今出かけております」と訂正した人はそれぞれ 4 名であった。「になる」「になっておる」を付けて、回答した人はそれぞれ 2 名で、全

て留学生であった。「になる」は尊敬語として使用されることが多いので、「でございます」と同じ意味を持っていると考える人が多いのであろう。

4.1.6 「させていただきます」の拡大使用

例文 10：本日は休業させていただきます。

例文 10 の集計結果

	適切	不適切
日本人	43	7
留学生	40	10

「させていただく」の使用拡大に関する例文 10 を、不適切と考えた日本人学生は 7 名であった。留学生の方も同程度で、不適切と考えた人は 10 名であった。

「(お・ご) ……(さ)せていただく」といった敬語の形式は、基本的には、自分側が行うことを、ア) 相手側又は第三者の許可を受けて行い、イ) そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。従って、ア), イ) の条件をどの程度満たすかによってこの表現には、適切な場合と、余り適切だとは言えない場合がある。

次の①と②例では、適切だと感じられる程度(許容度)が異なる。

①相手が所有している本をコピーするため、許可を求めるときの表現

「コピーを取らせていただけますか。」

②店の休業を張り紙などで告知するときの表現

「本日は休業させていただきます。」

上記の例①の場合は、ア), イ) の条件を満たしていると考えられるため、基本的な用法に合致していると判断できる。②の例はア) の条件がないので、「休業いたします」の方が適切である。

例文10の訂正文

訂正文	日本人	留学生
本日は休業します。(△)		8
本日はお休みさせていただきます。(△)	4	
本日は休業を取らせていただきます。(×)		2
本日は休業です。(△)	2	
本日は休業いたします。(○)	1	
合計	7	10

「本日は休業します」と訂正した人は 8 名で、全て留学生であった。「させていただく」の使用を意識しているから、「させていただく」という言葉を「します」に変えたと考え

られる。しかし、「します」という言葉は客に対しては敬意が足りないので、「いたします」を使うの方が適切である。

「本日はお休みさせていただきます」と「本日は休業を取らせていただきます」と訂正した人はそれぞれ4名、2名であった。「させていただく」は他人からの計らい、または上位者からの許可を得て何かをするという意味を表す表現である。「休業」は他人からの許可を得ようとするわけでもないし、得たわけでもない。この表現には客に迷惑をかけるかもしれない自分の行為を謝るといふか、謙虚な態度を表そうという意識があると認識したからであろう。

4. 2 考察

本研究では6つのパターンで調査を行った。ところが、同じパターンでも、差が見られる結果もある。二重敬語「お～する」のパターンに対して、日本人学生の方が不適切と思った人が多い。これは、留学生の方が「承る」という言葉はすでに尊敬語であることを意識しないからであろう。一方、「お～になられる」のパターンに対しては日本人学生の方が許容している人が多い。「社外と社内」の使い分けに関する文も、違う結果となった。同僚のことに「伺う」という謙譲語を使用することに対して違和感を感じる日本人、留学生も少ない。一方、会社外の人に部長のことを話す時「ご」という尊敬語使用に対してほとんどの日本人、留学生が違和感を感じている。

敬語表現の簡単な組み合わせに関する2つの例文の結果を見ると差が見られる。「この電車にはご乗車になれません」という敬語表現に比べると「先生はご出席されますか」の敬語表現に対してより不適切と思った人が多い。これは「お（ご）～できる」を尊敬表現のつもりで使っている場面があふれているからであろう。例えば、店で「お持ち帰ります」、 「コーヒーは自由にお替りできます」という案内書きをよく見かける。「お（ご）～する」の謙譲語に「れる」を付ける敬語表現を不適切と思った人は多く、特に留学生に顕著である。謙譲語を尊敬語として使用する例文でも留学生の方が「お（ご）～する」を謙譲語として意識する傾向にある。これは、留学生の方が敬語を教科書から学んでいるのに対して、日本人は日常的に目にする、耳にする敬語表現を適切な敬語表現だと思って、使用するからであろう。

「させていただく」の拡大使用、「物事に対しての敬語使用」に関する例文を適切な敬語表現に訂正した人は少ない。この表現は日本で盛んに使用されているから、その表現を適切な敬語表現だと思う人が多いと考えられる。

5. まとめ

本研究を通じて日本人学生と外国人日本語学習者の敬語使用の意識に違いがあることが分かった。留学生は教科書で適切な敬語表現を習っているから、敬語の文法、尊敬語と

謙讓語の使い分けを理解している人が日本人学生に比べると多いと言えるであろう。一方、日本人学生の場合、日常生活で耳にする、或いは目にする敬語表現が適切な表現だと思っている人が多い。ところが、日本で盛んに使用される敬語が日本語の教科書や本で「誤用」、「間違い敬語」とされている。言葉の変化はいつの時代でも起こるものだ。敬語も例外ではなく、徐々に変化している。現代日本語の敬語の教育では、教科書等に示す敬語表現を覚えるだけでは十分ではない。実生活における敬語表現の変化やその背景を認識することが大事だと思う。

参考文献

奥秋義信（2007）「勘違い敬語の辞典」東京堂出版

庚 皮細（2007）「現代日本語敬語の変化と日本語教育の問題」梅花女子大学

文化庁（1995 - 1998）『国語に関する世論調査』（文化庁文化部国語課「世論調査報告書」）

文化審議会（2007）「敬語の指針」

http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf